

## 国立国際医療研究センター病院での無痛分娩を 希望される方への説明文書・同意書（産科編）

当院では、経産婦さんでご希望された方を対象とし、麻酔科医師と連携して主に硬膜外麻酔を用いた無痛分娩を行っています。説明文書をお読みになった上で希望される方は担当医にお申し出下さい。

### 【無痛分娩の申し込みから実施までの流れ】

- ① 無痛分娩をご希望される場合には、原則として**妊娠 34 週頃まで**に無痛分娩申込書を担当医または助産師に提出してください。
- ② 全身状態を評価するために、**妊娠 36 週頃**に**血液検査（血算・凝固）**を行い、麻酔科医による診察ならびに説明を受けて頂きます（**木曜日午後 14:00 以降無痛分娩外来**）。
- ③ 当院の無痛分娩は**計画分娩**で行います。
  - 外来での診察所見や病棟の空き具合なども考慮した上で計画分娩の日程を決定いたします。計画分娩可能な曜日は月曜日、水曜日、木曜日です。
  - 入院までに分娩誘発同意書ならびに麻酔同意書の提出をお願いいたします。
  - 計画分娩予定日の前日にご入院いただき、必要に応じて子宮口を拡張する処置を行います。
  - 計画分娩当日は、午前 7 時頃から胎児心拍陣痛モニターを装着した上で子宮収縮薬を開始します。午前 9 時頃より麻酔担当医と連携して硬膜外カテーテルを留置し、無痛分娩開始に向けた準備を行います。分娩経過中、痛みが出現した時点で麻酔薬を投与開始いたします。
  - 無痛分娩の費用は、**通常分娩費用+150,000 円**となります。
  - 無痛分娩開始後に母子の状態から帝王切開が必要になった場合も、無痛分娩加算（150,000 円）は発生します。

### 【ご注意ください事項等】

- ① 麻酔科診察の結果合併症などのために無痛分娩の対象外と判断される場合があります。
- ② 計画分娩予定日より前に自然陣痛発来や破水に至った場合は麻酔科医師との連携が困難なため無痛分娩を実施できません。無痛分娩を実施できなかった場合も、事前に行った採血や無痛分娩準備外来受診等の代金は返却できません。

- ③ 無痛分娩は硬膜外麻酔（場合により脊椎麻酔）を用いて痛みを軽減するプロセスを意味します。最大の痛みを10、全く痛みがない状態を0として10段階評価を行い、3以下の痛みに軽減することを目的としています。痛みの感じ方は人によって異なりますので、痛みが完全になくならない場合もあることをご理解下さい。
- ④ 麻酔後も運動機能は保持されますので、ご自身で「いきむ」ことは可能ですが、麻酔の効果により「いきむ」タイミングがわかりにくくなり、十分な娩出力が得られなくなる場合があります。そのため無痛分娩では、分娩時に「吸引分娩」や「鉗子分娩」などが必要となる可能性が高まる傾向にあります。当院では陣痛に合わせた「いきみ方」を習得して頂くために、事前に助産師外来で指導を受けて頂きます。なお、硬膜外麻酔分娩の導入が帝王切開率を上昇させることはないとされております。
- ⑤ 子宮収縮薬に反応しない場合は、日をあらためて分娩誘発を行う場合があります。

#### 【合併症および有害事象】

硬膜外麻酔を用いた計画分娩では、子宮収縮薬使用や硬膜外麻酔に伴う合併症が生じることがあります。この点を十分にご理解の上、無痛分娩を希望するか否かを決めてください。分娩誘発に伴う合併症および有害事象については「分娩誘発同意書」を、硬膜外麻酔に伴う合併症については麻酔科による「無痛分娩説明・同意書」をご参照下さい。ご不明な点がありましたら、担当医または外来助産師までお問い合わせ下さい。なお、いかなる処置にも、一定の確率で合併症や副反応のリスクを伴います。ここでいうリスクとは期待していた成果が得られない場合や、軽度ないし致命的な合併症を併発することをさします。合併症などが発生したときは、速やかに適切な処置を行いますが、治療費はご自身の負担となります。あらかじめご了承ください。

不明な点がありましたら、説明した医師までご連絡下さい。

【連絡先】 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

国立国際医療研究センター病院

電話：03-3202-7181

## 無痛分娩に関する同意書

「国立国際医療研究センター病院での分娩を希望される方への説明文書を読み、当院における無痛分娩管理体制における基本的な事項に関して（特に以下の事項）理解した上で、無痛分娩を申し込みます。

- ① 国立国際医療研究センターで実施する計画無痛分娩実施の概要について
- ② 無痛分娩を施行する前に麻酔科診察や助産師による指導を必要とすること
- ③ 無痛分娩予定前に陣痛発来や破水した場合は無痛分娩を実施できないこと
- ④ 無痛分娩開始後に母子の状態により帝王切開が必要になる場合も、無痛分娩加算（150,000円）が発生すること
- ⑤ 無痛分娩を実施しても完全に痛みがなくなる場合があること
- ⑥ 分娩時に鉗子分娩、吸引分娩が必要となる可能性が高まること

国立国際医療研究センター病院 産婦人科科長 殿

年 月 日

分娩予定日 年 月 日

妊婦氏名（署名）

配偶者氏名（署名）

説明年月日 年 月 日

説明医師（署名）